

「なんみん」から学ぶ 「なんみん」という人を伝える



『開発教育指導者研修セミナー』

2017年8月2日

JICA/UNHCR 高嶋 由美子

【1】「なんみん」ってどんな人？



(c)AFP/JOE KLAMAR

人種、宗教、国籍、政治的意見やまたは特定の社会集団に属するなどの理由で、自国にいと迫害を受けるかあるいは迫害を受ける恐れがあるために他国に逃れた人々

「難民の地位に関する条約」(1951年)

条約からみる難民の条件

- 1) 5つの理由
- 2) 迫害
- 3) 国の外へ

しかし...

誰の視点？

【2】「なんみん」支援って？



法的、心理的、物的な保護を提供すること。
支援のタイミングはさまざま、例えば・・・

- ①受け入れ前
- ②受け入れ(緊急支援、自立支援、解決への支援)
- ③難民が難民でなくなった後

支援の実情(統計は[Global Trend 2016](#))

○避難した国はどんな国？

難民の約84%が低中所得国に受け入れられている

○難民キャンプでの食事は？

食糧は一日成人一人につき2100カロリー配給

ただし「油、小麦」等食材は限定的で、食べ慣れていない食材の場合も

○学校に行ける子供は(就学率)？ [教育へのアクセス](#)

難民の子ども:小学校・・・50% 中学校・・・22% 大学・・・ 1%

世界平均 :小学校・・・90% 中学校・・・84% 大学・・・34%

○“難民状態”はいつまで続く？

難民のうち1160万人が5年以上、そのうち410万人が20年以上難民状態
“祖国”を知らない世代が増えている

出来ることは限られている

【3】「なんみん」の人って誰？

- ① 誰でも「なんみん」になるかもしれない
(大人、子供、先生、農家、警察、誰でも...)
- ② 逃れる時も、逃れた後もいろいろ挑戦がある
- ③ 個人として様々な能力、見地、知識を持つ

「なんみん」も私たちと変わらない人間、
つらい経験をしてきた分、挑戦をしてきた分、
私たちよりもより色々なことを知っている先輩

私たちは何をすべきなのか？
私たちに何ができるのか？



(c)AFP/JOE KLAMAR

難民という同質の集団ではなく
一人の人としての「なんみん」



(c)Ahmad Baroudi/Save the Children

【4】「なんみん」の方々から 教えてもらっていること

- ① 力関係： 援助「する側」と「される側」の上下にならない関係づくりのためには、何が必要？
- ② 私の役割： その人の人生はその人しか決められない。私がよいと思ったことを押し付けてはいけない。私は何をすべきか？何ができるのか？
- ③ 相互援助： お互いにお互いから得る「なにか」がある。そのような関係を築くには？

- 相手は「なんみん」ではなく一人の人間
- 相手の話を聞いて、一緒に考える
- フィードバックをする

【5】「なんみん」のことを伝える


- ① 同じ人として
- ② 個人の人として
- ③ 「なんみん」という体験をしている人として

→「どこか遠くの人」「知らない人」「他人」ではない！
地球に生まれ、家族や自分の幸せを願う「同じ人」
もし友達や親類ならば自分は何をするのか？


→「してあげる」でのではない！
「いっしょにする」「どうすれば互いに幸せか、いっしょに考える」

→「かわいそう」「無力な人」ではない！
「ある状況にある人」「同じ能力を持ち、特有の経験を持つ人」

【6】私たちに 何ができる？



難民って遠い国の
人のことだから...



難民のことって
とっても大きすぎ
てわかりづらい

まずは、はじめの一步を！

- ①新聞やネットで、難民のこと知ろう！
- ②なんみんの人*や、難民を支援をしている人の話を聞いてみよう！
- ③日本を含めた世界の難民の受け入れについて調べてみよう！
→学んだことを『難民新聞』や「自分流なんみんテキストブック」を作り、友達に説明しよう！

少し勇気を出して行動！

- ④もし自分が難民になって日本に来たらどんな問題に直面するか想像して、何が難民の人に必要なのか考えてみよう！
- ⑤ワークショップ**など自分達で開いて学んでみよう！
- ⑥クラスごとに洋服リサイクルやレシート募金等、今ある支援方法を探し出し、実践を考えよう！
- ⑦企業や団体などと交渉して、共にできる難民支援をしてみよう！
→学校、そして地域を巻き込んで難民について、日本の社会のあり方について考えよう！

* 各種配慮が必要なので、難民援助団体などのアドバイスを求めること

** リソース・ペーパーご参考のこと

【7】おわりに

日本の難民受け入れ

受け入れのよりよい環境(政治、社会、経済など)を
作っていく必要性？

- 多様性(diversity: 違いを試す、楽しむ、違うことを認め合う)
- 包括性(inclusiveness: 違いを受け入れる、
どちらが良い・悪い、正しい・間違っているではなく、
単に「違う」ということ、その違いから学ぶ)

社会発展のため必要性

→日本が得られることは？考えてみよう

一人の人の人生を受け入れる責任

→お互いが幸せになるためには？考えてみよう

補足

・「難民」についてより多くの情報を得るためのご参考に、“リソースペーパー”を用意しました。

冊子・映像などの教材や、授業で実践できるワークショップ方法、難民支援協会ハンドブック、当事者や支援する人々へのインタビュー、企業や学校による協力事例などのURLをご紹介します。ぜひご参照ください。

https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/video/jhqv8b0000007ktu-att/refugees_02.pdf

・本発表では 法的に認められた「難民」の方々と一人の人として難民状態にある方々を「なんみん」と表現しています。